

株取引のススメ

～大学生から始める資産形成～

平川ゼミナールⅡ：青木智哉 梅根和志 田川友基 福山雅也
 瀬上創一朗 古里泰士 前迫春樹

1. はじめに

私たちが生活する上で不可欠なものは収入である。収入には労働収入と不労収入があるが、ほとんどの日本人が不労収入を得ていない¹⁾。それはつまり、リストラや病気などで急に労働収入が途絶えた場合、生活が困窮するリスクを抱えているということである。そのようなリスクを回避するためにも、不労収入の確保は必要である。また、若いうちから不労収入を得ることは、資産を形成するのに優位であり、年金額が減少すると言われている老後の生活の安定に有効な方法であると考えられる。

不労収入には不動産の家賃収入・株式の配当収入など様々あるが、少額取引が設定されている株式投資（株取引）は収入の少ない学生にうってつけといえる。そこで私たちは実際に株取引を行うことで、不労収入の確保を図ると同時に、なぜほとんどの日本人が不労収入を得ようとしらないのか理由を探ることにした。

2. 株取引についての意識調査

2. 1 調査目的

日本証券業協会調査部が実施した「平成 24 年度証券投資に関する全国調査（個人調査）」²⁾によると約 2 割しか株取引をしていないという結果が出ている。そこで私たちは、大学生が株に興味あるか、どれくらいの人が株取引をやっているかについて調査を行った。

2. 2 調査項目

九州産業大学の学生が株についてどう思っているかを調査すべくアンケートを実施した。効率よく結果を集めるため iPad アプリ「アンケート Pro」³⁾を使用し、九州産業大学内の学食（1 号館・中央会館・8 号館）やその他学内で実施した。アンケートは主に人が集まる昼休みに行った。

【設問項目】

- 学部・学年・性別
- 株の印象
- 現在の状況
- 株取引をしてみたいか など

3. 結果と考察

2015 年 10 月 27 日～11 月 9 日の間にアンケートを行ったところ、現在株取引をしてない学生のうちの 40.17%が株取引をしてみたいと答えた。

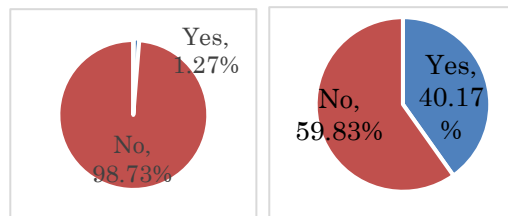


図 1：現在株取引をしているか？（左）

図 2：株取引をしてみたいか？（右）

また表 1 に示すように、株をしてない理由で最も多かったのが「やり方がわからない」であった。

表1：株をしてない理由

回答	割合
やり方がわからない	32.75%
損をしたくない	13.04%
興味がない	11.59%
お金がない	11.30%
怖い	10.43%
お金がかかりそう	10.43%
手続きが面倒くさそう	8.99%
その他	1.45%

学生の株に対する印象は、「難しそう」や「リスクが高そう」などの回答が多く、全体の約70%の人が株に対してマイナスの印象を持っていることがわかった。しかし、図2と表1を見ると、全体の約40%の人がやり方さえわかれば、株取引を始めてみたいということがわかった。

4. 株取引の流れ

株取引は証券会社を介して行うため、証券会社に口座を開くのが第一歩である。インターネットとコンピュータ（もしくはスマートフォン）で手続きを行えるが、その際に本物のウェブサイトを模倣したフィッシングサイトがあるので個人情報漏洩やお金を振り込まないように注意が必要である。また、会社によって手数料の違いや少額取引の有無、扱っている銘柄の違いがある。

1. 自分が買いたい銘柄を選ぶ。
2. 証券会社を選び口座を作る。
3. 口座にお金を振り込む。
4. 証券会社にどの株を何株買うかの注文を出す。

5. 実際の取引

図3に2015年11月16日現在のA君の取

引状況を示す。またB君は2社の株と1つの投資信託を買っている。株の配当利回りは約3%と約4%であり、配当を得ることによって不労収入を得ている。

明細数 2		評価損益合計	
		-231円	-1.90%
銘柄 預り/保有	現在値 取得(参考)単価	評価損益	評価損益率
サニーサイド 2180 NISA/保護	1,350円 1,007.0円	+1,029円 +34.06%	
セガサミーHD 6460 NISA/保護	1,312円 1,522.0円	-1,260円 -13.80%	

図3：A君の所有株

6. まとめ

日本人の約2割しか株取引をしてないという状況は、九州産業大学の学生を対象にアンケートを行った結果とほとんど一致している。しかしながら、株取引をしたことがない人の約4割が「株をやってみたい」という回答であったため、株取引のやり方を知れば実際に実行する人たちが出てくる可能性がある。

私たちは実際に株取引をやってみて、それが難しいものでなく、単元未満株の少額投資制度やNISA（少額投資非課税制度）があることから収入が少ない若者に適した不労収入を得る手段であると実感した。さらに世界の経済情勢を注意して見るようになり、株価の変動の原因についても考えるようになった。今後も取引を続けていくつもりである。

参考文献

- [1] 日本銀行調査統計局「2015年第2四半期 資金循環の日欧米比較」
<https://www.boj.or.jp/statistics/sj/sjhiq.pdf>
- [2] 日本証券業協会調査部「平成24年度 証券投資に関する全国調査（個人調査）」
http://www.jsda.or.jp/shiryo/chousa/data/research_h24.html
- [3] アンケート Pro
https://www.it-momonga.com/special_pro.html